

家庭対話 保護者の感想

丹波市立竹山小学校

ご多用のところ、家庭対話をお世話になり、話の内容や感想をたくさんお寄せ頂いて、ありがとうございました。学年ごとに数点のみですが、紹介させていただきます。

1年生 教材名「はりえ、書き方」

自分が頑張っている時、悩んでいる時にどう言ってもらったら、嬉しい気持ちになるか、相手に嫌な思いをさせないかを話し合いました。

特に「書き方」は今、家でも弟が書いたひらがなに対して強い言い方、いやな言い方でけんかになることもあったので、弟もまじえて、どう言ってほしいかなどを話しました。相手の気持ちを想像して伝える言葉は難しいので、話し合ったことを忘れず、思いやりの気持ちをもって過ごしてほしいです。

2年生 教材名「ちっともおもしろくない」

ミーミー、ピョン太、どちらともが「おもしろかった」と言えるようにするにはどうすれば良いか話し合いました。「どちらもが得意なことで遊ぶ」、「練習したり、ゆっくり投げたりする」、「遊び方を先に話し合っておく」、「ミーミーだったら後からでも謝りに行く」みんなが楽しむには、一人一人がみんなのことを考え、思いやることが大切だと思いました。



小さい妹が、娘のスマホゲームを「一緒にしたい」と言って、その時に娘は「〇〇ちゃんはすぐに失敗するからイヤ!」と言っていました。「それって、『ちっともおもしろくない』じゃない?」と言うと、普段無意識に自分がミーミーになっていることに気が付いた様子です。されたことはよく覚えているけれど、してしまったことは忘れやすいもの。「これからお互い気をつけていければいいね。」と娘と話しました。

3年生 教材名「橋」

「『もし今、いじわるしていると噂を聞いたので、大好きで仲良しの友達と遊んだらダメ。』と言ったらどうする?」と現実的な内容で話をしてみました。授業で話していたように、「実際にされたわけではない。見たこともない。されたらその時に考える」という答えでした。親や大人はどうしても先のことを考えすぎたり、子どもが傷つかないように先回りして言ってしまったりしてしまうことも伝えましたが、自分の意思をしっかりとって気持ちや考えを伝えてくれて安心しました。大人でも人に流されたり、人の目を気にしてしまったりすることもあるので、難しいなと私自身も考えさせられ、勉強になりました。



4年生 教材名「半日村」

今まで誰も変えてこなかったことを変えていくのは「無駄なこと」「間違っていること」と思ってしまふけれど、自分も協力して結果を出せたら、「誇りに思う」と話していました。

一平が最初に始めたことをなぜやり遂げられたのかを考えた時に、日を当てることを目標としていたからだと思います。周りの人についても、一生懸命がんばっている人をバカにするのではなく、まずは興味を持ち協力することの大切さについて話をしました。

5年生 教材名「みんなの秋祭り」

どうして西町がいつも最後なのかを話しました。子どもは「分からない」と言っています。私の子どもの頃も、同じ小学校なのに、1つの地区だけ秋祭りに参加できないところがありました。そこも私が小学生の頃に初めて子どもみこしをつくって参加されるようになったという話をしました。今もなお、差別が存在することがあると話しました。子どもは西町の人のように私もすると言っていました。一人で行動するのは無理でも、同じ気持ちの人と共にならできるかもしれないねと話しました。



6年生 保護者の感想 教材名「人の世に熱あれ 人間に光あれ」

授業で、我が子は「200万（35億）円もらう」を選択していました。なぜかと聞くと、「お金をもらって好きに暮らす方が良い。」「でもそれじゃ差別はなくなるかな？」と問いかけながら、（今現在も差別自体がゼロにはなっていないよな…）と思いました。「差別をなくしたい!」と思い、自分達だけでなく、周囲の人や未来ある子供達を思って行動を起こすアツい思いが素晴らしいと思いました。そうやって強い思いを持たなければ差別はなくなるでしょう。この教材を通して、「差別はいけないこと」という信念をしっかり持ち続けることを忘れないでいてほしいです。

～まとめ～ 感想を読ませていただきますと、各学年の学習内容を踏まえながら、「人を尊重し、行動できる子に」という願いが伝わってきました。その願いは、保護者の方も教職員も同じだと改めて感じています。今回の授業にとどまらず、日々培う人権意識を基盤に、竹山小が目指す「自分の良さに気づき、自分も相手も大切にできる子」の育成に取り組んでいきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。